

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

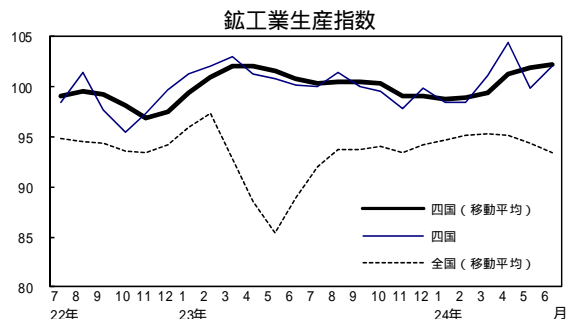
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年5月)	今回(平成24年8月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
住宅建設	大幅に増加	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	持ち直しの動きに一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

化学は、医薬品が好調であったこと等から増加している。電気機械は、蓄電池や光電変換素子のスマートフォン向けの需要が好調であったことや、開閉制御装置で大型の出荷があったこと等から増加している。食料品は、在庫調整等により減少している。パルプ・紙は、印刷用紙が塗工類、非塗工類ともに需要が芳しくなく、一部の事業所で生産調整を行っていること等から減少している。一般機械は、化学機械・貯蔵槽やジブクレーンで大型の出荷があったこと等から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.1	1.2	19.1	10.2	5.9
電気機械	15.4	4.7	4.7	2.8	3.1
食料品	13.6	4.4	1.2	0.3	7.4
パルプ・紙	11.8	1.5	4.3	3.6	3.5
一般機械	8.9	2.1	3.6	5.2	1.1
鉱工業	100.0	0.3	2.8	1.7	1.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

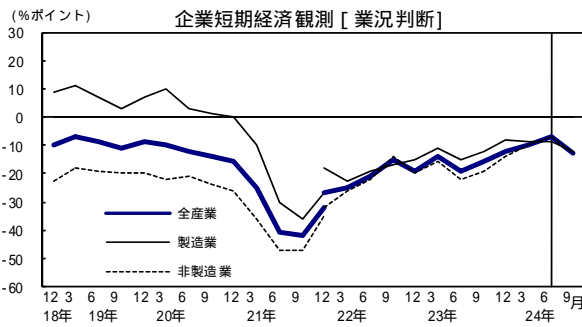
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

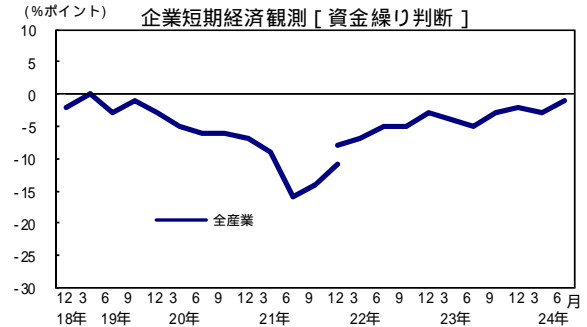
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

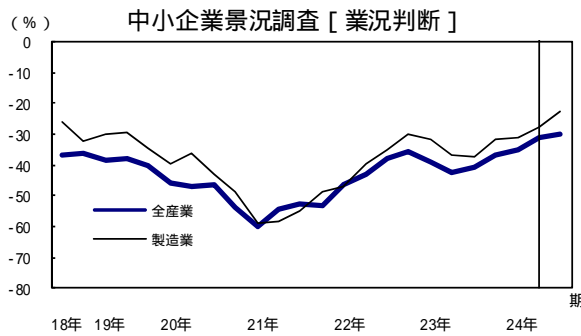
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

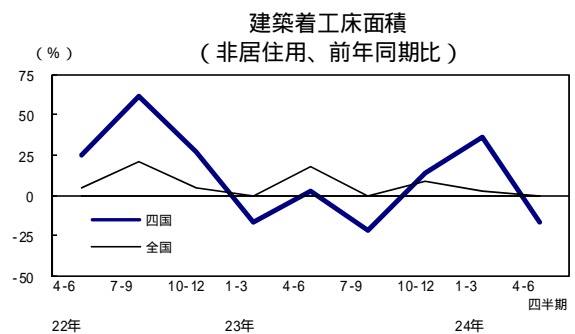
「6月以降、全国的に雨模様で客足が減っていたが、7月中旬以降に梅雨が明けてからは激に注文が増えている(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	16.6(0.7)	8.0(2.4)
製造業	16.6(1.3)	13.8(0.5)
非製造業	16.6(3.6)	0.5(5.7)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

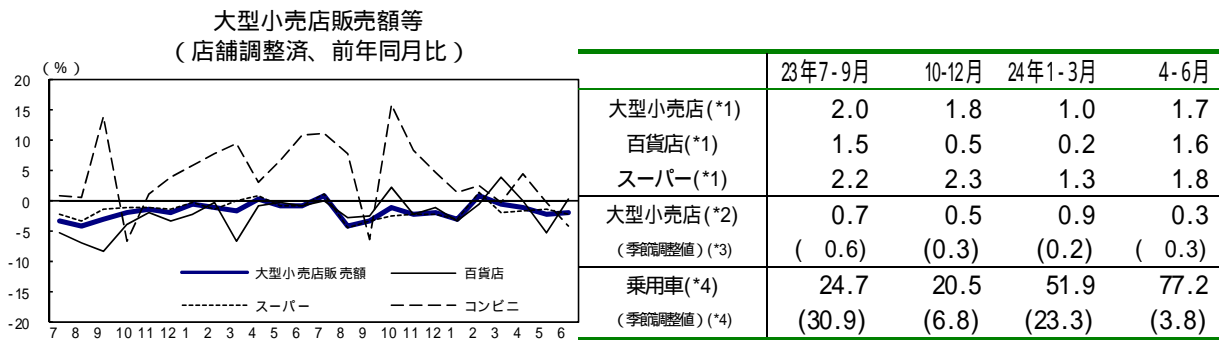
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.7%減、前期比で0.3%減となった。

百貨店は、4月は催事効果がみられた飲食料品や宝石等の高額品の一部に動きがみられたことから前年を上回った。5月は前年に比べ土日祝日の数が2日少なかったことや中旬の気温が低めであったことにより前年を下回った。6月は身の回り品で婦人靴やアクセサリ等が好調、飲食料品でも催事効果や中元の早期受注が堅調であったことなどから前年を上回った。スーパーは、前年の東日本大震災の影響によるまとめ買いの反動や気温が低めに推移したことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「夏のクリアランスセールが昨年までは7月初旬に一齐開始だったのが、今年は6月末からと7月中旬からの2パターンになり、来店が分散され、今まであった他ショップとの連動(クロスセル)がなくなり、前年を下回る結果になった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



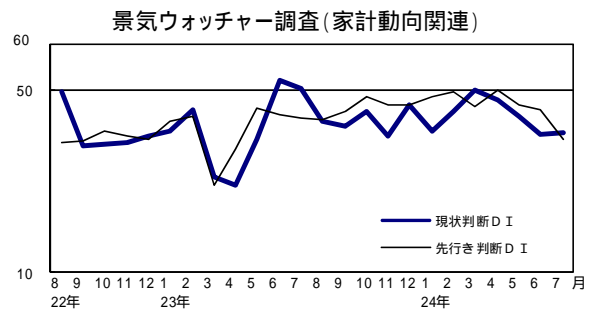
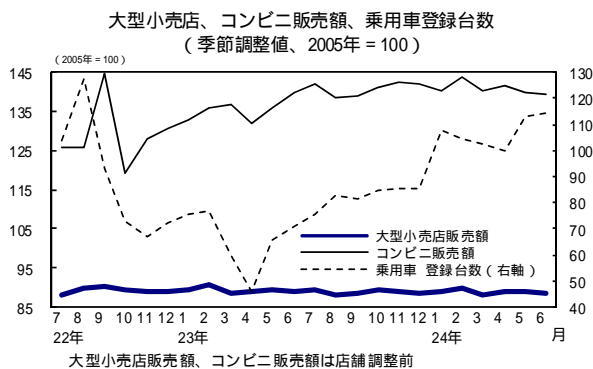
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

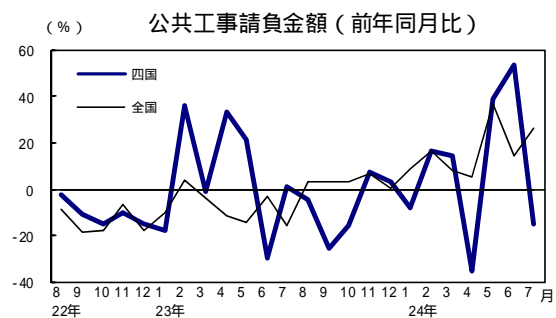
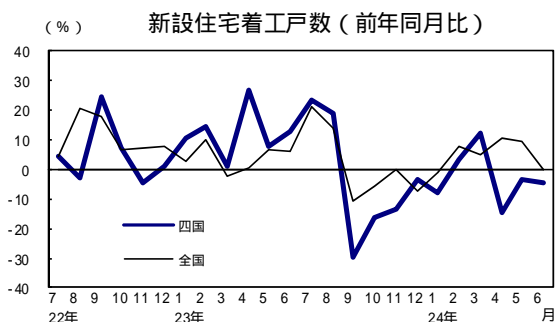
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

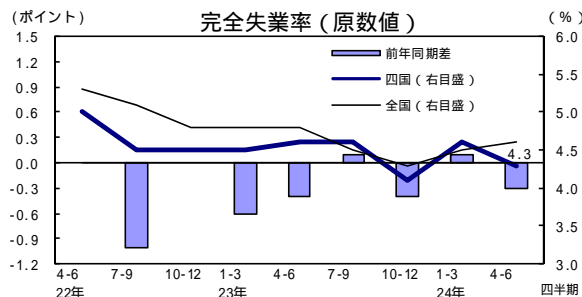
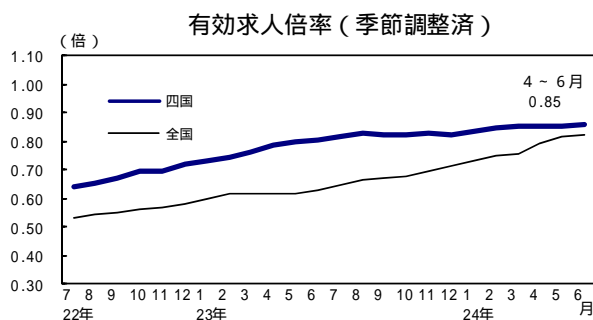


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

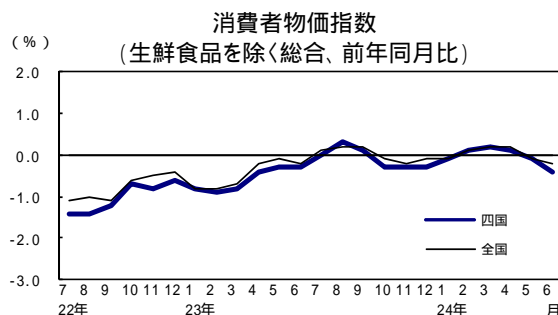
「採用人数は前年並みで推移している。業種間で採用意欲が違っており、医療・介護福祉関係では、看護師・介護士等の不足が続いている（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	80	58	72	63	28
(前年比)	1.2	10.8	0.0	14.5	6.7
負債総額	250	120	141	139	56
(前年比)	13.5	19.9	13.2	12.2	54.8



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・東京スカイツリーの影響で、観光客が関東方面に流れており、宿泊客が減少しつつある（都市型ホテル）。

<先行き>

・円高是正がなければ回復は見込めない（鉄鋼業）。

